

登校時一声運動・マナーアップ運動



明るく元気な一声を

10月7日から9日の3日間、角館高校で、「登校時一声運動・マナーアップ運動」が行われました。これは、東北地区高等学校PTA連合会健全育成委員会が主催するもので、県内でも毎年積極的な取り組みが展開されています。期間中は、玄関前に生徒会やPTA関係者、市役所職員などが立ち並び、登校する生徒たちに「おはようございます」と元気に言葉をかける姿が見られました。



登校する生徒たちは、笑顔であいさつされると、元気にあいさつを交わしていました。

積極的な声かけ運動に、登校する生徒たちは、笑顔であいさつを返していました。

角館高校で姉妹校提携調印式



国際交流の機運高まる

10月14日、角館高校と台湾師範大学附属高級中学（台北市）が姉妹校提携を結びました。台北市では平成24年度から台湾修学旅行誘致事業を進めており、一昨年、角館高校と学校交流したことが縁となっていました。今回は生徒36人と先生4人が訪れ、昼食にきりたんぼ鍋を一緒に作って食べたり、武家屋敷を角館高校の生徒が案内しながら、石黒恵家で日本文化の茶道体験を行いました。



姉妹校提携の調印式では、角館高校の青柳徹校長と台湾師範大学附属高級中学の洪仁進校長が締結書に署名しました。

たりと、多彩な体験メニューで交流を深めました。

タイの教職員が授業視察



教育現場に驚きみせる

秋田県教育庁が世界で通用する若い人材の育成や秋田県の教育現場の世界発信を目的に連携協定を結んだタイ・バンコクのクリスチャン・カレッジ校（小中高一貫校）の教職員25人が、10月15日に仙北市を訪れ、松木内小学校と角館小学校を視察しました。一行は授業の様子や校内を見学。その後、角館小学校では田口桂一郎校長が小学校での特色ある授業や取り組みを説明しました。



「掃除や片付けをどのように教えているのか大変興味があった」と、タイの教職員たちは日本の授業に興味津々でした。

訪れた教職員は、しっかりと聞くことや、掃除は自分たちで行うことなどを学校できちんと教育していることに驚いたようでした。

角館でカツルミさん熱唱



角館に思いをはせ歌う

10月17日、角館樺細工伝承館で仙北市の姉妹都市・長崎県大村市出身のシンガー・ソングライター、カツルミさんのコンサートが行われました。カツルミさんは中学生の頃、大村少年合唱団の一員で旧角館町を訪問した際、戊辰戦争でのつながりを知り、ずっと角館で歌うことを待ち望んでいたそうです。会場に集まった市民ら130人は、ピアノを弾きながら歌うカツルミさんの、やさしく透明な歌声に酔いしれていました。



「当時の出来事を子どもたちにも伝えていきたい」と話したカツルミさんは、戊辰戦争を題材に13曲を熱唱。

白寿のお祝い  
おめでとうございます

このたび、白寿を迎えられた小松禎さんと山本セツさんに、それぞれ仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



小松禎さん（中央）



山本セツさん（前列右から2人目）

「保育室ねむねむのき」がオープン

本年度からスタートした子ども子育て支援新制度では、所定の基準を満たす小規模な保育事業にも



門脇市長から田中さんへ認可書が手渡されました。

運営面で公的給付が行われることになりました。この制度を活用し、田中雅子さん（田沢湖生保内）が、10月1日に仙北市の認可を受けて、自宅に3歳未満の子どもを3人まで預かる事業をスタートしました。田中さんは、「小規模ならではのアウトホームな雰囲気の中で、子どもの個性を大切に、お子さんと親御さんが安心できる保育室を目指します」と、笑顔で意気込みを語っていました。

秋田内陸線フレーム切手贈呈式



内陸線の利用拡大に期待

10月1日、日本郵便株式会社東北支社（本間幸仁支社長）は、オリジナルフレーム切手「あきた美人ライン 秋田内陸線」（82円切手10枚1230円）の販売を開始したことを記念し、10月2日、田沢湖庁舎で贈呈式が行われました。今回のフレーム切手は、「内陸線の四季」を題材に、秋田内陸縦貫鉄道株式会社の社員と秋田内陸線サポーターの方々が撮りためた写真から選りすぐりの10枚を切手に



オリジナルフレーム切手は、大曲仙北管内を含む149の郵便局で販売しており、販売開始から売れ行きは好調。すでに増刷が決定するほどの人気ぶりです。

したもので、売れ行きは好調とのこと。今後の秋田内陸線の利用促進に、一役買ってくれそうです。

2015 西木駅伝競走大会



50年の歴史に幕おろす

10月11日、「2015西木駅伝競走大会（さよなら大会）」が行われ、紙風船館前から市役所西木庁舎までの10区間25.5kmを22チームがたすきをつないで走り抜きました。成績は次のとおりです。  
【一般の部】▼優勝 小山田 S P E E D 1時間32分46秒▼準優勝 西荒井がんばーズ 1時間34分23秒▼第3位 松相 1時間35分36秒  
【中学校の部】▼男子優勝 神代中学校 1時間23分15秒▼準優勝 松



長年大会にご尽力くださった方々や応援してくださった皆さま、ありがとうございました。

木内中学校 1時間28分32秒▼第3位 西明寺中学校 A 1時間28分45秒▼女子優勝 神代中学校 1時間40分58秒▼準優勝 西明寺中学校 1時間42分28秒▼第3位 松木内中学校 1時間53分15秒



平成27年度防犯功労者表彰式  
表彰者（敬称略）

◇全国防犯功労者防犯栄誉金賞 坂本邦夫 ◇秋田県防犯功労者 藤村恒男、戸澤正隆、草薨勇 ◇仙北地区防犯功労団体 株式会社高喜、中村地域見守り隊 ◇仙北地区防犯功労者 田口一翁、三浦完、佐藤久志、鈴木美奈子、高橋防賊、林崎一美、佐々木ミチ子、草薨久雄、笹敏雄、伊藤邦彦 ◇秋田県安全・安心まちづくり功労団体 西明寺防犯巡回隊



防犯功労者表彰を受けられた皆さん。

10月10日、田沢湖総合開発センターで全国地域安全運動へ向けた合同パトロール出動式が行われ、仙北市防犯協会支部会員、関係者らが青色回転灯装着車などに乗り込み、市内各地をパトロールしました。

パトロールの前には、平成27年度防犯功労者・団体表彰が行われました。また、10月14日に男鹿市で開催された「安全・安心まちづくりフォーラム in 男鹿」の中では、秋田県安全・安心まちづくり功労団体表彰が行われ、防犯に功績のあった個人・団へ表彰状が伝達されました。



全国防犯功労者防犯栄誉金賞を受賞した坂本邦夫さんは「これまで活動に携わってきた皆さんに与えたい」と喜びを語りました。

平成27年度防犯功労者表彰式  
全国地域安全運動合同パトロール出動式

第65回秋田県公民館大会



魅力ある地域づくりを  
10月16日、「第65回秋田県公民館大会」が仙北市民会館で開催され、市内外から約400人が参加しました。

公民館関係者の表彰式に引き続き、各地区の公民館活動の事例報告が行われました。

仙北市からは西木公民館の武藤真利子館長が、多くの公民館活動を通じて地域のつながりについて発表しました。

また、五城目のトメさんこと小



仙北市の公民館活動の事例を発表した西木公民館の武藤真利子館長。

玉進さんが「魅力ある地域づくりと笑い」と題した基調講演を行うなど、地域づくりのアイデアについて学びました。

第20回平福百穂顕彰短歌大会



予想以上の応募作品数  
10月18日、角館榊細工伝承館を会場に「第20回平福百穂顕彰短歌大会」が開催されました。

大会では、沢口芙美氏（日本歌人クラブ中央幹事）による「平福百穂とアララギの歌人達」と題した講演が行われ、会場に集まった約100人の参加者は、その興味深い話に聴き入っていました。

引き続き、全国から予想を上回る応募数（一般の部に228首、中・高校の部に397首）のあつ



た短歌の中から、それぞれ16首の受賞者に表彰が行われました。

沢口芙美氏の講演では、平福百穂とアララギ歌人との関わりについて、知識を高めることができました。

第34回角館盆栽展



風情感じながら観賞  
10月16日から18日の3日間、角館交流センターを会場に、「第34回角館盆栽展」が開催されました。

この催しは、角館盆会（加藤敏雄会長）の主催により毎年行われているもので、市内の愛好家の作品を展示しています。今年は30品が展示され、3日間で県内外から約400人が訪れました。

会場では「五葉松」や「山もみじ」、「姫りんご」や「紅さんざし」などの個性豊かな盆栽が展示さ



れ、訪れた見物客の目を楽しませていました。

訪れた見物客は、風情を感じさせる作品の数々に、じつと見入っていました。

第43回角館町榊細工伝統工芸展



キラリと光る伝統的技法  
10月18日から25日まで、角館榊細工伝承館で「第43回角館町榊細工伝統工芸展」が開催されました。

この工芸展では、秋田県知事賞などの受賞作品をはじめ、これまで見ることができなかった職人こだわりの一品が展示されました。

また、「トレイ」をテーマに開催された榊細工デザインコンペの応募デザイン画も展示されるなど、開催初日は、伝統的な技法やデザインが施された作品を一目見



ようと、多くの来場者で賑わいを見せました。

榊細工職人による卓越した技術と美しい仕上がりの作品がずらりと並びました。

人と水がおりなす魅力ある地域づくりを考えよう  
みちのくダム湖サミット in 玉川

10月15日、仙北市市制10周年記念として、国の直轄ダムの水源地域である自治体が所有するダム湖の活用について考える「みちのくダム湖サミット in 玉川」が、駒ヶ岳グランドホテルで開催されました。

このサミットは2007年から東北各地で開かれており、今年で7回目となります。秋田県では初めての開催となり、仙北市のほか、北秋田市、山形県長井市、岩手県栗石町、宮城県川崎町の関係者や市民約250人が参加しました。



パネルディスカッションでは、各自治体が抱える課題についても活発な意見交換が行われました。

第1部では、国土交通省水管理・国土保全局の小俣篤河川環境課長が「最近の河川環境行政の話題」と題した基調講演を行い、第2部では、「ダム水源地域の現状とこれから」をテーマに、各首長によるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、それぞれの自治体で取り組んでいる特色あるダムの活用事例を観光や食、スポーツの話題も交えて紹介した後、課題について意見交換しました。



ダムを活用した事例がパネル展示され、訪れた参加者の目を楽しませていました。

終わりに、門脇市長が「上下流の市町村と住民間の連携強化」などについて力強く宣言しました。